岡崎城だより

No. 2
2019.3

平成 30 年度実施事業の成果

写真 1　天守台石垣の根石と礎石の状況（H30. 8 実施、南から）

写真 2　出土した金箔瓦

写真 3　金箔瓦（拡大）

Ⅰ．はじめに

『岡崎城跡整備基本計画-平成 28 年度改訂版-』(H29.3)の策定から 2 年目の平成 30 年度は、岡崎城跡内で 4 か所の発掘調査と石垣測量調査、石垣保存修理工事を行いました。今回は平成 30 年度に実施した事業について紹介します。

No	地　点	期　間	内　容
①	天守台石垣	H30.8.17 ～9.28	トレンチ調査3箇所 調査面積 16.0 ㎡
②	総堀跡① (籠田公園)	H30.7.2 ～9.12	トレンチ調査4箇所 調査面積 139.0 ㎡
③	総堀跡② (御旗公園)	H31.1.7 ～1.31	トレンチ調査2箇所 調査面積 91.6 ㎡
④	菅生川端石垣	H30.12.7 ～12.28	トレンチ調査6箇所 調査面積 51.1 ㎡

表 1　発掘調査履歴

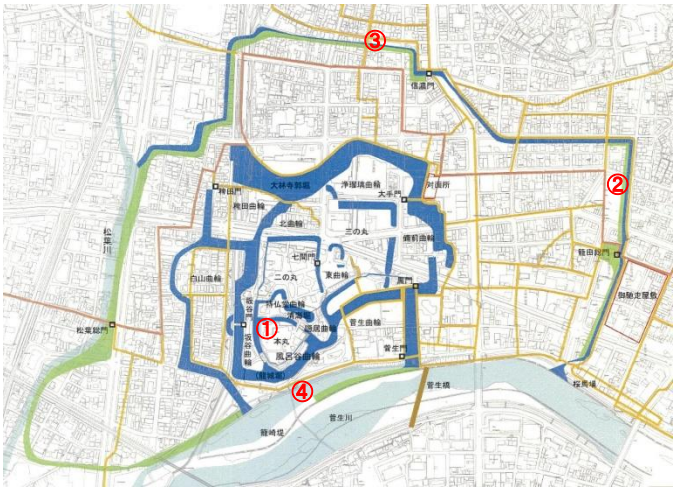


図 1　岡崎城郭図と発掘調査地点

No	種　別	期　間	内容
⑤	石垣測量	H30.8～H31.1	天守台石垣/埋門北袖石垣他
⑥	石垣変位計測	H30.6～H31.3	危険度 A 判定 3 地点
⑦	石垣保存修理工事	H31.2.27～3.15	風呂谷門西袖石垣

表2　石垣測量・保存修理工事履歴

Ⅱ. 発掘調査

1. 岡崎城跡天守台石垣

岡崎城天守台石垣は石材の形・大きさが不揃いな自然石を使用している点や、石垣の隅角部の算木積が未発達な点などから、城内で最も古い段階の石垣と想定されます。岡崎城の天守は天正 18(1590)年に城主となった田中吉政により初めて築かれたと考えられています。

調査成果

天守台石垣南面では地表面から約 1.0m下層で石垣の根石が確認されました。根石の最も大きなものは横 2.0m、高さ 0.9mの巨石が使用されていました(写真1)。またこの根石の手前(本丸面)では礎石が 2 基確認されました。石垣の根石や礎石は中世の遺物を多く含む整地層を掘り込んで構築されていることがわかりました。

天守台石垣北面では石垣の外周に石組溝が確認されました。天守台北・西面の犬走りに溜まる水を排水する目的が想定されます。石組溝の排水先は現在も犬走り下の石垣に開口しています。石組溝の石材からは近世の設置と考えられ、天守台構築以後の天守台周辺の排水対策の一端をうかがい知ることができます。

写真 4　天守台石垣北西隅角部

写真 5　天守台石垣北面

また、天守台石垣北面の鏡石の手前から「三つ葉葵紋」の金箔瓦(小菊瓦)が出土しました。金箔瓦は岡崎城内で初めての出土であり、城郭内における三つ葉葵紋の金箔瓦としては全国でも名古屋城に次ぐ発見となりました(その他に聚楽第、増上寺でも確認されています)。

2　岡崎城総堀跡

岡崎城は「総堀」により城下町まで囲い込んだ総構え構造の城郭でした。総堀の総延長は約 4.7kmを測り、総堀に囲まれた総構えの範囲は約 86ha にも及ぶ大城郭でした。総堀は戦災復興や市街地化により現在はその痕跡をほとんど留めません。今回、籠田公園と御旗公園にて総堀跡を確認するために発掘調査を行いました。

調査成果(籠田公園)

総堀跡の東辺にあたります。調査により総堀の堀肩と思われる傾斜を確認しました。上部は近代に積まれたと考えられる石垣が築かれていますが、その背後には総堀の法面と思われる傾斜が残っています。堀の深さは 2.2mまで確認しましたが、堀の最深部は調査区のさらに東側にあるものと思われます。堀肩の上部は絵図によれば土塁があったと考えられますが、すでに削平されており痕跡は確認されませんでした。総堀が地山を掘り込んで構築されていることや、総堀の法面形状に関する情報を得ることができました。

写真 6　籠田公園調査区全景

写真 7　近代の石垣

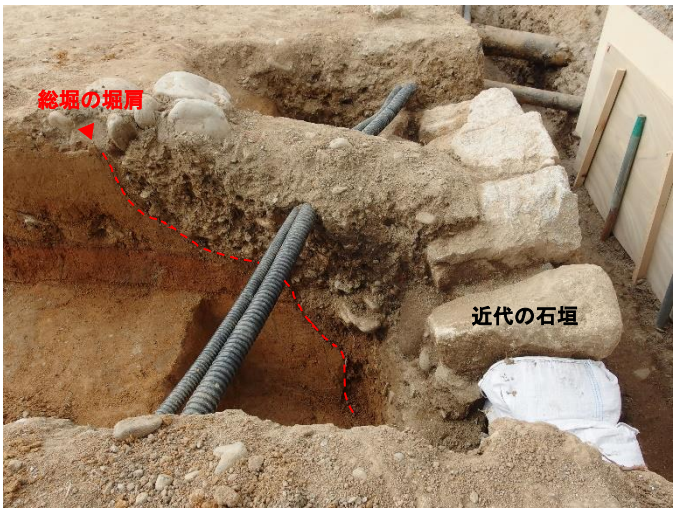


写真 8　近代の石垣背後の状況

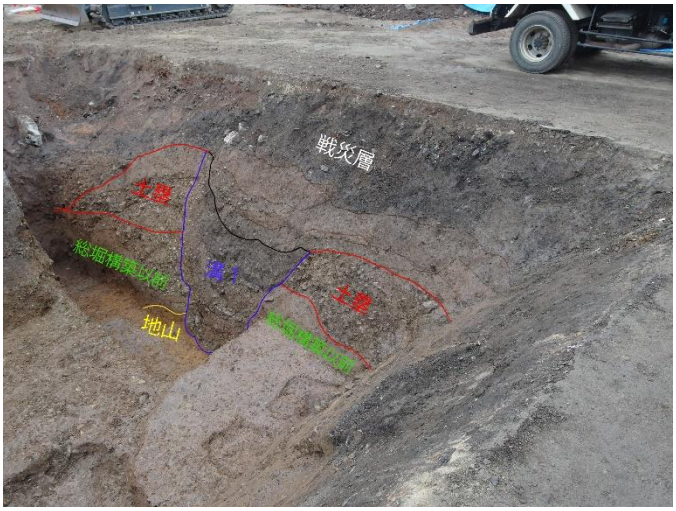


写真 9　御旗公園調査区全景（南西から）

調査成果（御旗公園）

総堀跡の北辺にあたります。絵図では城内側に土塁が描かれています。調査により城内側の土塁及び堀底へと向かう総堀の法面が確認されました。また、総堀が構築される以前の中世の遺物包含層及び遺構面が確認されました。近代の地形図では調査地北東の甲山から派生する谷が総堀北辺部分に沿って延びることが確認できることから、旧地形を利用して総堀が開削された可能性が高いことがわかりました。これを裏付けるように、地山面も南から北に傾斜して落ち込むことが調査でも明らかとなりました。

写真 10　土塁断面状況

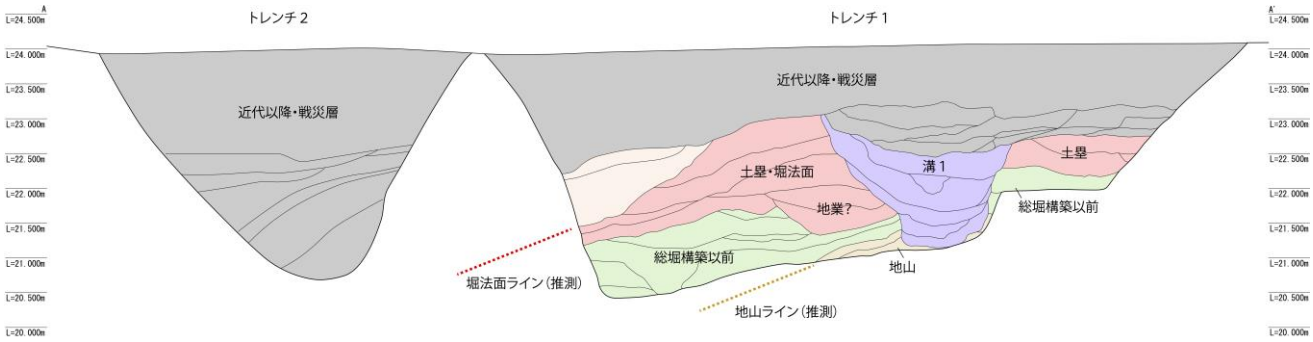


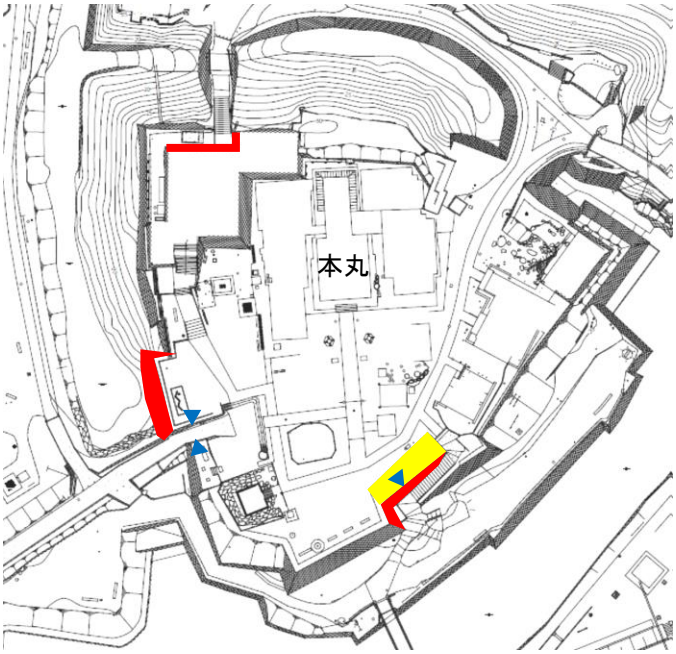
図 2　調査区東壁断面図

Ⅲ. 石垣測量調査

平成 29 年度に「岡崎城跡石垣保存修理基本計画」を策定し、この計画に基づき平成 29 年度から石垣測量や変位計測を継続して実施しています。今年度は 6 箇所の石垣測量と 3 地点で変位計測を行いました。また、危険度の高い石垣に対して保存修理工事を行いました。

1　石垣測量

石垣測量は6箇所で行いました（図3）。測量は写真測量により石垣立面図の作成を行いました。測量図はオルソ画像と呼ばれる、写真の歪みやズレに対して正しい大きさと位置に表示されるように補正した画像です。オルソ画像は、写された像の形状が正しく、位置も正しく配置されているため、画像上で位置や大きさ、距離などを正確に計測することが可能です（図 4）。また、3次元データとしても利用でき、活用の幅が広がります。



■ 石垣測量　▼ 変位計測　■ 保存修理工事

図 3　石垣関係調査位置図

2　石垣変位計測

石垣基本計画では、[石垣の変状による危険性]と[利用形態からみた危険性]をクロスチェックすることで【石垣の危険度】を判定しています。危険度は高いものから A～D まで分類しています。岡崎城跡の石垣全 216 面に対して、危険度 A の石垣は 8 面あります。この危険度 A の石垣に対して変位計測を行っています。変位計測は石垣を定期的(年 4 回)に計測することで石垣の変状(孕み出しや沈み込み等)の有無を確認するものです。

平成 30 年度は本丸埋門と風呂谷門西袖石垣について変位計測を行いました。結果としてはいずれの石垣においても変状は認められませんでした。今後も調査地点を増やすとともに継続的に計測を行っていきます。

Ⅳ　石垣保存修理工事

風呂谷門西袖石垣について保存修理工事を行いました。この石垣は孕み出しが大きく、来場者の主要な導線上に位置することから、危険度 A 判定の石垣です。また、石垣の石材が抜けている部分があり、また石垣背後の平坦部に水が溜まるなど、保存上の対策が必要な石垣です。

工事により石材の抜けを補い、天端石付近は土嚢で養生し、背後の平坦部も整形しました。今後も定期的な変位計測を継続しながら石垣の状態を注視していきます。

写真 11　石垣保存修理工事(完成後)

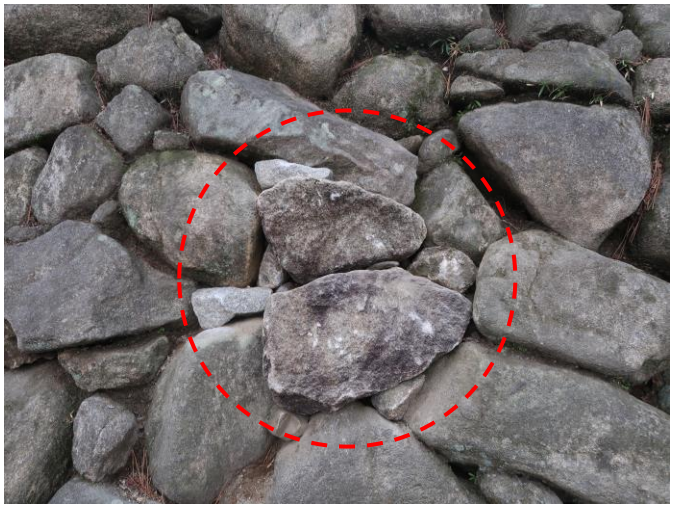


写真 12　石材の充填

図 4　石垣測量図(風呂谷門西袖石垣)

岡崎城だより　No. 2

発行年月日　平成 31 年 3 月 15 日
編集・発行　〒444－0861　岡崎市十王町 2－9
岡崎市教育委員会社会教育課
TEL：0564－23－7270